

北魚沼あぜ道情報

2011年
6月号
JA北魚沼

緑の絨毯の魚沼

遅れた田植えもようやく終わり、
田圃に植えられた稲は日一日とすくすく育ち、
魚沼の地に緑の絨毯が敷き詰められました。



田植え直後の田んぼ。数日後には緑の絨毯に…。

ようやく雪が消え、魚沼の地は道路を走る車の数より田んぼにある田植え機の数が多いかと思うほど一斉に田植えが開始されました。植えられた苗たちは、ようやく足に地がついたようにミネラルたっぷりの水と栄養たっぷりの土から元気をもらいグングン生長します。やがて緑の絨毯が敷き詰められたような鮮やかな緑の田んぼで魚沼の地は埋め尽くされます。

もちろん喜んでいるのは苗たちだけではなく、田掻きや代掻きで縄張を荒らされ行き場がなくなっていた蛙たち。田植えが終わって落ち着いたたんぼで、毎晩合唱コンクール。私たちはそれを聞きながら眠りにつきます。さて田植えが終わったからと言って休んではいられません。田んぼの畦草刈りを行いながら次に作業段階を段取りします。この時期必ず行わなければならないのが「溝切り」と「中干し」です。

「溝切り」とは田んぼに溝を切り排水溝につながる作業で、排水がスムーズになります。水を抜いて田んぼをいったん乾かす事を「中干し」といいますが、「溝切り」作業と同時に進みます。乾いた田んぼには小さなひびが入り、根から酸素補給が出来ます。土の中の有機質が発酵などによりメタンガスなどの有害ガスを発生することがあります。そうなる根が酸素を補給することができなくなり最悪の場合根が腐ってしまいます。「溝切り」することで土の中のガスを抜く事が出来るのです。

また、「中干し」をすることで余分な分けつ（株分かれした、穂にならない茎）を抑制し良い茎だけを残して充実した穂を作る効果があります。

これらの作業は田んぼの作業の中でも一番重労働ですが、美味しいコシヒカリを作るためにはなんのその！もう一度腕まくりして機械を押ししていきます。

何ともまあ頼もしい後姿。さて晩酌の準備でもしてきましようか！

(JA北魚沼 佐藤)

先日、田植え体験のお手伝いで素足で田んぼに入り田植えをしました。手で植えるのは非常に重労働。中腰で苗を植えながらはるか遠くのゴールを目指し前へ進んでいきます。田んぼにはヒル(御存知ですか...?)や蛙や、普段お目にかかれない生き物たちがいっぱい。安全で安心な田んぼには間違いありませんでした...が...

次の日、腰が痛くて起き上がれなかったのは言うまでもありません。が、労働で流す汗はやはり気持ちがいいですね。

田んぼと新人の成長日記

5月中旬、ようやく代掻きが始まり、まっさらな田んぼが鏡のようでした。会長の田んぼから南東の方角には魚沼三山の美しい残雪風景が広がっており、魚沼の人は昔からこの周囲の山々の残雪の形を見て代掻きや田植えの時期の目安にしてみました。

例えば、日本酒でもその名が知られている八海山三兆付近の残雪が写真のような形になると、麓の人は「田掻き馬(代掻き馬)」が出た。」といい、代掻きを始めるのです。

写真はまだ田んぼがまっさらですが、五月二十九日に田植えを行いました。育苗箱から水田へ移植された苗はあっという間にぐんぐん生長し、月に一度の日記では追いつかない程度です。(もちろん観察はこまめにします。)きっと来月号を書く頃には茎が増え、どっしりとした立派な株になっていることでしょう。私もイネに負けないよう日々の業務に全力で取り組み、たくさん成長したいと思えます！

(野村)



お米の保存方法大丈夫？

束の間の春が終わり、早くも夏が近づいて参りました。梅雨の季節はお米にとって大敵です。

ぬか部分を剥ぎとられた白米は、いわば生鮮食品のようなものです。酸化による品質低下や虫野発生を抑えるため、数日のうちに食べられる量なら密閉容器に入れて冷蔵庫へ、残りは米びつなどに移し、風通しの良い所で保管してあげてください。